

2024年度 サステナビリティ活動報告

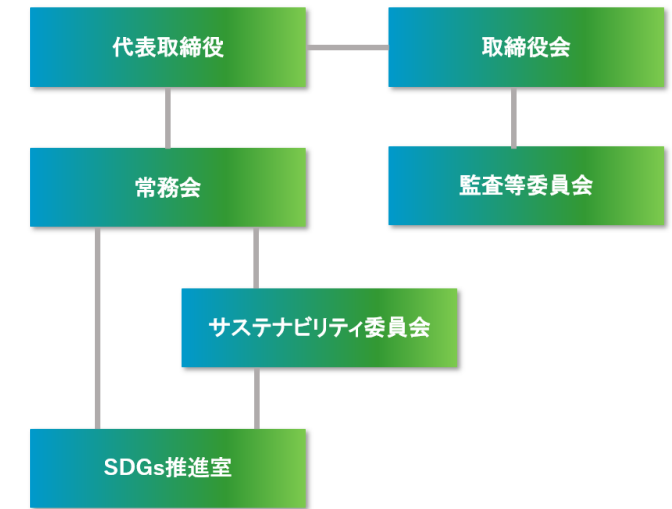


目次

■ SDGs推進体制および基本方針の策定	...	2
■ サステナビリティ方針	...	3 - 4
■ 活動報告		
■ 地球の未来への貢献	...	5 - 9
■ すべての人が活躍する未来の創造	...	10 - 11
■ テクノロジーで新しい未来へ	...	12 - 13
■ 人に優しく共に生きる	...	14 - 15
■ いつまでも信頼される会社に	...	16 - 17
■ 2025年度の予定	...	18

SDGs推進体制および基本方針の策定

- テレビ朝日グループでは、SDGs推進室と各局室およびグループ会社の若手から中堅で構成されたSDGs推進チームが組織され、コンテンツ展開ならびに企業活動の両面からSDGsを推進しております。
SDGs推進室で検討した事項は、サステナビリティ委員会へ報告後、常務会へ報告されます。さらに、重要事項と判断された事案については取締役会に付議され、企業の持続的成長や永続性に大きな影響を与えるリスクや機会について継続的かつ集中して特定・評価を行い、迅速に事業戦略へ反映していきます。



- サステナビリティを巡る取組みを推進するため2022年5月11日に「未来に向けた5つの重点テーマ」を策定しましたが、取り巻く環境や当社の取組みに鑑みて、2024年4月に「未来に向けた5つの重点テーマ」の目標・内容を更新しました。主な目標の変更点は以下となります。
 - 環境をテーマとした「地球の未来への貢献」では、脱炭素社会に向けた取組みを追加しました。
 - 人をテーマとした「人に優しく共に生きる」では、人権に関する取組みと、多様な人材の活躍とWell-Beingの推進を追加しました。
 - ガバナンス・企業責任をテーマとした「いつまでも信頼される会社に」では、報道機関としての社会的責任と公共的使命の徹底を追加しました。 [5つの重点テーマ 更新内容](#)

サステナビリティ方針

サステナビリティ宣言

SUSTAINABILITY STATEMENT

テレビ朝日グループは、「より魅力的かつ社会から求められる情報やコンテンツを提供し夢や希望を持ち続けられる社会の実現に貢献する」という企業使命を実践し、持続可能な社会の実現とグループの発展を目指します

地球とともに

保有するすべてのメディアを最大限活用し、社会・環境の課題解決に向け、情報を発信し、コンテンツやサービスを提供します。また、企業活動を通して、課題解決に向けた取り組みを推進します。

人とともに

互いの人権や多様な個性・価値観を尊重し、すべての人が暮らしやすい社会を目指すとともに、グループで働く従業員・スタッフがやりがいを持ち、心身ともに安全に働き続けられる環境を保ちます。

未来に向けて

法令や社会規範に則った、公正で健全な事業活動を行い、すべてのステークホルダーと良好なパートナーシップを築きます。

サステナビリティ方針

未来に向けた5つの重点テーマ



すべての人が活躍する
未来の創造



人に優しく
共に生きる



地球の未来への貢献



テクノロジーで
新しい未来へ



いつまでも信頼される
会社に

活動報告



地球の未来への貢献

豊かで美しい地球を次世代へ継承していくため、環境問題の解決に取り組みます。また、災害報道を通して、自然災害から身を守る行動をメディアとして社会へ呼びかけていきます。

- SDGsの取り組みを集中して放送する「未来をここから×SDGsウィーク」を、9月、2月に展開。各報道情報番組の企画に加え、気候変動をテーマにした「緊急報告！再エネ革命 風車が導く奇跡の物語」や、様々なアイデアで心を晴れやかにする人を紹介した「松岡修造のみんながん晴れ～未来を晴れやかにする人を発掘！～」を放送しました。



- 国連とメディアの連携によるSDGs達成に向けた枠組み「SDGメディア・コンパクト」の加盟社として、気候変動対策キャンペーン「1.5℃の約束」を展開しました。NHKを含む在京6局連動の環境スペシャル番組の放送や共同制作動画の発信、また、SNSムーブメント『何もしないともっと暑くなる』にアナウンサーが参加するなどして、気候変動についてより多くの人々が考え、アクションを起こすきっかけを作りました。



活動報告



地球の未来への貢献

豊かで美しい地球を次世代へ継承していくため、環境問題の解決に取り組みます。また、災害報道を通して、自然災害から身を守る行動をメディアとして社会へ呼びかけていきます。

- 東日本大震災から14年となる2025年3月11日、「東日本大震災から14年 命を守る防災力」を放送し、宮城県出身の佐々木快アナウンサーと熊本県出身の森山みなみアナウンサーが自らの被災経験をもち、地元へ貢献しようとする被災者の取材や災害に対するインフラの「防災力」取材し伝えました。
 - 東日本大震災の被災地復興の推移を伝えるYouTube「REC from 311」では、間近に迫る津波の動画や、被災地を14年間撮り続けた“定点映像”を配信しています。
 - 動画情報防災サイト「まいにち防災」では、テレビ朝日系列26局の災害の記録を日めくりカレンダーと地図形式で公開しています。



「REC from 311」「まいにち防災」



能登半島地震 被害状況マップ

- 能登半島地震から1年後の2025年1月1日、ANN報道特番「能登半島地震から1年 地震・豪雨 複合災害に備える」を放送し、復興に向けた能登の現在の姿を伝えました。
 - 「能登半島地震 被害状況マップ」では、視聴者から寄せられた映像やANNが撮影した被害状況を地図上に表示し随時更新し、地元発信のきめ細かい報道、インターネットメディアならではの優位点が評価されています。（『Internet Media Awards 2025』で選考委員特別賞 受賞）

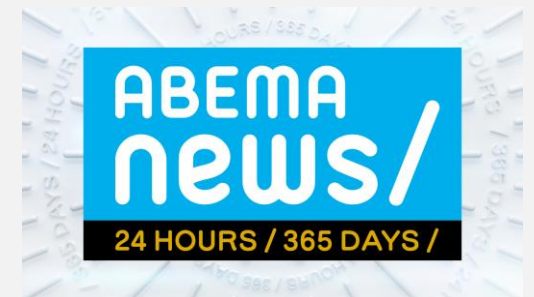
活動報告



地球の未来への貢献

豊かで美しい地球を次世代へ継承していくため、環境問題の解決に取り組みます。また、災害報道を通して、自然災害から身を守る行動をメディアとして社会へ呼びかけていきます。

- BS朝日では多数のSDGs関連番組をレギュラー編成しています。特に、「バトンタッチ SDGsはじめてます」は日本民間放送連盟 特別表彰青少年向け番組 最優秀賞を受賞しました。
- 気候変動をテーマとしたスペシャル番組「地球クライシス 第10弾～激変する海！地球温暖化の影響と再生へのヒント（9月29日(日)）」、「地球クライシス 第11弾 気候危機 転換への道しるべ～2030年まであと5年！人類の現在地とは！？（12月28日(土)）」、「地球クライシス 第12弾 気候危機 転換への道しるべ 温暖化を止められるのか！？（3月24日(月)）」を放送しました。また、「地球クライシス」は「Media is Hope AWARD」シリーズ継続賞を受賞しています。



- 24時間365日配信している「ABEMA NEWS」は災害報道などにおける情報インフラとして評価され、「Asia-Pacific Broadcasting+ Awards 2024」の「News Broadcasting部門賞」を日本メディアとして初受賞しました。

活動報告



地球の未来への貢献

豊かで美しい地球を次世代へ継承していくため、環境問題の解決に取り組みます。また、災害報道を通して、自然災害から身を守る行動をメディアとして社会へ呼びかけていきます。

- バーチャルセットの活用により、環境負荷の高い木材加工のセットやフリップなどの廃棄物を削減しました。
- 節電やスタジオ照明設備のLED化により、本社スタジオ設備の消費電力を2020年度比で31.1%削減しました（2030年度目標：50%削減）。

テレビ朝日本社ならびにアーク放送センターにグリーン電力を導入したことによる再生可能エネルギー比率は約10%となり、約1,500トンのCO2排出量を削減しました。（2030年度目標：再生可能エネルギー比率100%）



バーチャルセット

- 美術セット廃材を再活用する「art to ART Project」では、「おおたオープンファクトリー」、「しづやさくらまつり2025」のキッズ向けワークショップで、廃材を活用したオブジェを製作し、リサイクルするだけでなく新たなアート体験を創出することで、環境問題をより身近に感じていただく機会を提供しました。
- テレビ朝日映像(株)では、環境問題をテーマにした番組制作のほか、本社オフィスの省エネ運動（電力使用量 前年度比 23.2%削減）や飲料用紙カップの廃止、オフィス内自販機の売上に応じたマッチング寄付の取り組みなど、環境・社会貢献活動を実施しています。
- (株)日本ケーブルテレビジョンでは、行動指針「エシカル55」を策定し、バナナペーパー名刺、フードロス対策、港区の環境美化などに取り組んでいます。また、くらしを未来へ紡ぐ人々を紹介する番組「しあわせのたね。」（土曜あさ9時55分～）を制作しています。



art to ART ワークショップ

活動報告



地球の未来への貢献

豊かで美しい地球を次世代へ継承していくため、環境問題の解決に取り組みます。また、災害報道を通して、自然災害から身を守る行動をメディアとして社会へ呼びかけていきます。

- 「METROCK2024」で使用した電力のうち、10万kWhを風力発電およびバイオマス発電で発電されたグリーン電力でまかないました。



- 各スポーツイベントでのSDGs活動やチャリティー企画を紹介し、アスリートや各団体が地域貢献や社会課題解決に取り組む様子をお届けしました。

紹介事例（一部抜粋）

- シャレン！社会連携活動 『ラブ!! Jリーグ』（金曜深夜1時15分～）

社会課題や共通のテーマ（教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など）に、地域の人・企業や団体・自治体・学校などとJリーグ・Jクラブが連携して、取り組む「シャレン！（社会連携活動）」。各地での献血や簡易的な健康診断のほか、各クラブが自主的に開催している活動を年間で表彰する「2024 Jリーグシャレン！アウォーズ」を紹介

- チャリティー活動

野球、ゴルフの中継において、選手等の直筆サイン入りユニフォームなどの売上金や、大会入場料・賞金の一部を被災された方々へ寄贈する活動を紹介



アスリートによる社会連携活動

活動報告



すべての人が活躍する 未来の創造 コンテンツを通して、子供からシニア層まであらゆる世代の人々に“学びの場”を提供していくとともに、その先にある“人々が活躍できる社会”の実現に貢献します。

- 新規事業創出支援事業「FUTURE TALENT STUDIO」にて、次世代を担う起業家やイノベーターを支援する施策を実施しました。
- スタートアップ企業や話題の新規事業を紹介する「BooSTAR ～スタートアップ応援します～」(毎月1回/日曜あさ10時～)を放送し、ビジネスや社会課題解決の視点から「一歩先の未来」を紹介しています。
- サイバーエージェントグループのCA Tech Kids社と共同で、全国の小学生を対象としたプログラミングコンテスト「Tech Kids Grand Prix 2024」を主催。プログラミングを通して子どもたちの新しい可能性を切り拓く取り組みを支援しました。
- 「JSEC2024 第22回高校生・高専生科学技術チャレンジ」を、朝日新聞社とともに主催し、優れた研究に対し「テレビ朝日奨励賞」を贈賞しました。
- 「全国小学生ラグビー決勝大会ヒーローズカップ」、「全国ボルダリング小学生大会」などの制作・放送・配信を通じて、全国各地の小学生にスポーツの機会を紹介し、「誰でも参加できる」「地域に関係なく才能を発揮できる」といったメッセージを送ることで、スポーツの普及に貢献しました。



FUTURE TALENT STUDIO



BooSTAR

活動報告



すべての人が活躍する 未来の創造 コンテンツを通して、子供からシニア層まであらゆる世代の人々に“学びの場”を提供していくとともに、その先にある“人々が活躍できる社会”の実現に貢献します。

- 情報・社会教育支援活動の一環として「出前授業」「テレ朝出前講座」「館内見学」を継続的に実施しています。「出前授業」は開始から20年を迎え、参加人数は17万人を突破。自治体を主な対象とした「テレ朝出前講座」には2,400人を超える参加者があり、災害報道の役割等についてお伝えしました。
- 「サンドウィッチマン & 芦田愛菜の博士ちゃん」にインスパイアされた、知育エンタテインメントとして2021年からスタートした「君も博士になれる展」は、テレビ朝日若葉台メディアセンターを中心に、シリーズ累計で29万人の来場者にお楽しみいただいています。
- テレビ朝日・六本木ヒルズ夏祭りSUMMER STATION（2024年7月20日～8月25日）にて「日本水泳連盟100周年記念 みんなが泳げるニッポンプロジェクト（※） ビート板寄贈イベント」を開催しました。
- 全日本大学駅伝では、「未来にタスキをつなごう」を合言葉に、参加校のSDGs活動を、テレビ朝日スポーツ公式YouTubeで配信しました。

※日本水泳連盟・東京海上日動が全国のプールにビート板1万枚を寄与する取り組み

神奈川大学 『小学生への食育授業』

大阪経済大学 『猛暑の中でもトレーニングを継続して行うための熱中症対策』

【2024年度】

出前授業

68回実施、5,920名参加

テレ朝出前講座

39回実施、2,407名参加



テレ朝夏祭り ビート板寄贈イベント



全日本大学駅伝

活動報告



テクノロジーで新しい
未来へ

テクノロジーの進化により、人々の生活が急速かつ大きく変化するなか、最先端の技術を伝えていくとともに、日々の活動にも取り込みます。

- AIの利活用を促進するため全社横断の「AI推進チーム」を組成しました。新たな表現手法、業務の効率化、課題の解決等につながる活用方法を調査研究し、時代の変化に合わせた取り組みの検討を行っています。
- 最新のAI技術を用いたコミュニケーションロボットを開発しました。「日曜マイチョイス」（日曜ごご4時30分～）に出演し、他の出演者と楽しく会話をしています。
- 「選挙ステーション2024」（2024年10月）でAIコメンテーターを起用し、選挙や世の中に対する若者の意見を伝えました。
- テレビ朝日独自の生成AIツール「Go-chat」を開発。新たなビジネスの創出、課題の解決、業務効率化を推進しています。中でも、「イントラネット検索機能」は、生成AIが社内情報を横断的に検索し、情報を整理して回答する仕組みで、迅速な情報共有が可能になっています。現在、この機能の社内利用を積極的に進めています。



AIロボット「ソウダネ・チョイスくん」

Go-chat

社内専用の生成AIツール
「Go-chat」ロゴ

活動報告



テクノロジーで新しい
未来へ

テクノロジーの進化により、人々の生活が急速かつ大きく変化するなか、最先端の技術を伝えていくとともに、日々の活動にも取り込みます。

- オリジナルの仮想都市「光と星のメタバース六本木」で、羽生結弦さんの単独アイスショーツアー「Yuzuru Hanyu ICE STORY 3rd “Echoes of Life” TOUR」とのコラボレーションを実施し、アイスショーの世界観を全国各地の皆様にご体感していただきました。
- 2025年2月に13回目となるテレビ朝日社内の関係者向け技術展示会「ゴーテック2025」を開催しました。AI技術を駆使した特設コンセプトスタジオ「MIRAI STUDIO」では、カメラのスイッチングから照明の制御、LED演出まで、最新技術を詰め込んだ次世代のスタジオを構築しました。
- ペーパーレス化やRPAによる定型業務の自動化により、作業時間の短縮、業務の品質向上を実現し、DXを推進しております。



光と星のメタバース六本木



ゴーテック2025「MIRAI STUDIO」

番組制作資料を電子化

情報番組において
配布作業等を大幅に短縮し、
コピー用紙の利用枚数を 60 %削減

チャットボット活用

問い合わせへの対応作業を
年間 611 時間削減

グループ会社全体

- ・申請書・カンペなどの紙を
年間 約 69.4 万枚削減
- ・業務自動化により定型業務を
年間 11.4 万時間削減

ロボ活用(148業務)

定型業務を
年間 10.7 万時間以上削減

活動報告



人に優しく共に生きる

互いの個性や価値観を尊重し、すべての人が暮らしやすい社会を目指します。
また、従業員のさまざまなライフステージを支援していきます。

- 2024年4月に「人権デュー・デリジェンスチーム」を発足。「人権相談窓口」を設置して勉強会や人権リスク検討のためのアンケートやヒアリングを実施。人権リスクを特定し、具体的な対応策について検討しました。
- N H Kと在京民放が連携して女性の生き方や健康を考える「国際女性デー」のキャンペーンに参加し、アナウンサーによる座談会などを公開収録して発信しました。
- 番組制作における人権や差別、ジェンダー平等などに関する事例を社員や外部スタッフに周知すべく、考査委員会（毎月開催）や考査事例勉強会（年3度開催）を実施しました。（延べ参加者数3,000人超）
- 「ビジネスと人権」「Well-Being経営」「性的マイノリティを私たちはどう伝えているか」など外部の専門家を講師に招いたセミナーなどを開催し、組織内でより透明性を持った健全な環境を築くことの重要性を理解しました。
- NPO法人東京レインボープライドが主催するLGBTQ+ 関連イベント「東京レインボープライド2024」のパレード（2024年4月）にメディア有志団体の一員として参加しました。当社でも 同性パートナーについて配偶者に準じた対応を行っています。



国際女性デー座談会



東京レインボープライド2024

活動報告



人に優しく共に生きる

互いの個性や価値観を尊重し、すべての人が暮らしやすい社会を目指します。
また、従業員のさまざまなライフステージを支援していきます。

- 「人的資本」に関するテレビ朝日グループの方針と目標に関する取り組みや実績を、サステナビリティサイトに掲載しています。中でも2024年度は「男性育休取得率」が84.6%（前年比+13.4%）と大幅に伸び、平均取得日数も67.8日と高水準で推移しています。
- 技術・美術の現場で働く女性スタッフの職場環境改善に向けて、管理職の意識改革研修を行い、女性に配慮した施設の充実を順次実施中です。
- 多様な人材の活躍と社員のWell-Being度向上を目指して、労務やキャリアに関する様々な研修を実施、より健康に配慮し快適な空間を目指して食堂のリニューアルなどを行いました。
- 年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめるインクルーシブスポーツ「ボッチャ」の全国ボッチャ甲子園大会（2024年8月）にて、久保田直子アナウンサーによるボッチャの絵本『ボッチャマンはきみだ！』の読み聞かせイベントを実施しました。イベントの様子は日本ボッチャ協会公式YouTubeで配信されています。
- (株)フレックスでは、テレメンタリー「WITH YOUR LIFE～私にしかできない幸せの選択～」(2024年10月)の制作を通じて、多様性を尊重した社会の重要性を伝えました。
- テレビ朝日福祉文化事業団では、児童福祉事業「子どもキラット！楽演祭」、障がい者就労支援「ジョブボンププロジェクト」、高齢者福祉施設訪問など、様々な支援活動を展開しています。



「ボッチャ甲子園」での読み聞かせイベント

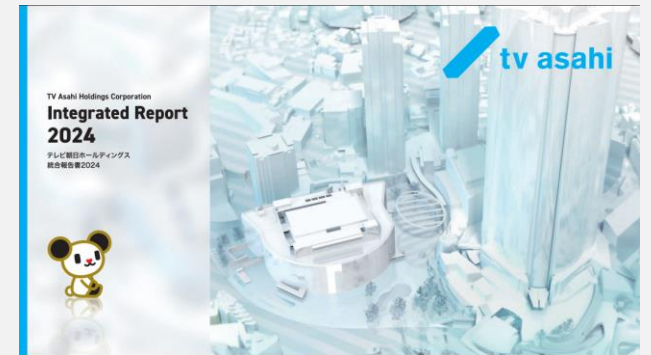
活動報告



いつまでも信頼
される会社に

放送局・報道機関として公共的使命を全うするため、ガバナンスを強化し、コンプライアンスを徹底します。情報提供の充実に努め、経営の透明性を高めるとともに、社会のルールや様々な要請に適う体制を常に構築していきます。

- 2024年12月に情報開示体制を強化するため「テレビ朝日ホールディングス 統合報告書 2024」を発行しました。成長戦略やサステナビリティの取り組み等、財務・非財務情報を公開しています。
- 自己検証番組「はい！テレビ朝日です」（日曜あさ5時～）では「みなさまと一緒にテレビを考える」をテーマに、当社の番組や取り組みについて取り上げています。特に、毎月開催している「テレビ朝日放送番組審議会」で有識者が様々な課題番組について審議する様子をお伝えし、視聴者の皆様とテレビのことを一緒に考えていただく契機としています。
- 帰宅困難者受け入れ体制強化による防災対策、消防の協力による防災訓練、地元警察と共に交通安全運動やテロ対処訓練を実施し、地域の防災力アップに貢献しています。



テレビ朝日ホールディングス統合報告書2024



テレビ朝日・麻布警察署 合同テロ対処訓練



自己検証番組「はい！テレビ朝日です」

活動報告



いつまでも信頼
される会社に

放送局・報道機関として公共的使命を全うするため、ガバナンスを強化し、コンプライアンスを徹底します。情報提供の充実に努め、経営の透明性を高めるとともに、社会のルールや様々な要請に適う体制を常に構築していきます。

- 全役職員を対象とした「階層別コンプライアンス研修」の実施、「コンプライアンス・ハンドブック」の作成、相談窓口対応などを通じて、テレビ朝日およびグループ会社従業員のコンプライアンス意識向上に向けた取り組みを続けています。
- 情報セキュリティ体制の構築、法令等の遵守、情報資産の保護、教育・訓練等に取り組むことを宣言した情報セキュリティ基本方針を公表しています。また、情報セキュリティリテラシーの向上や従業員への啓発のため、eラーニングと標的型攻撃メール訓練に応じて優良な社員・スタッフを認定する制度を開始しました。
- フリーランス法の施行にあたり社内勉強会を実施し、従業員への周知を行いました。また、制作会社との取引実態について社内調査を実施し、取引の適正化を推進しています。
- ESG対応が評価され、FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選ばれました。



コンプライアンス・ハンドブック「人権」



情報セキュリティ啓発のための
シンボルロゴ

2025年度の予定

- 人権デュー・デリジェンスにより特定された人権リスクへの対応(グループ会社共通の外部相談窓口の設置など)
- 人権デュー・デリジェンスをグループ会社従業員へも拡大
- 「Girls Meet STEM」女性社員の働き方を学ぶ座談会 & 社内見学会開催
- 国連とメディアの共同キャンペーン「1.5°Cの約束」に継続参加
- 「東京ドリームパーク」(2026年春開業予定)における省エネ・省資源推進、再生可能エネルギー活用の検討
- 本社における電力の再生可能エネルギー比率40%を達成